

論文要旨

中国人留学生の友人関係期待と体験の否定的認識及び友人形成に向けた教育的介入

小松 翠

近年のグローバル化に伴い、在日留学生数は急速に増えている。しかし、留学生とホスト国の住民である日本人との関係など質的側面では未だ問題が解決されていない。特に、留学生が大学キャンパスで日常的に接する日本人学生との友人関係は重要であるが、問題が山積している。そこで、本研究では中国人留学生の友人関係に関する期待と体験の否定的認識及び関連要因について実証的な研究を行い、問題を明らかにする。その上で、問題の改善策を探るため、友人形成に向けた教育的介入について検証する。

本論文は、全9章から構成される。以下では各章の内容について述べる。第1章では、留学生交流の現状と動向について概観した。昨今、世界各国においてグローバル人材としての活躍が期待される留学生受入れの促進と自国学生をグローバル人材として育成するための海外留学派遣が積極的に行われていることなどを示した。

第2章では、異文化接触に関する諸理論と研究動向について概観し、大学キャンパスにおいて留学生と日本人学生の交流が停滞している問題について述べた。また、原因帰属に関する諸理論について概観し、留学生はホスト国の学生との間に葛藤が生じた際に、葛藤原因がホスト国側にあると認識する場合、友人関係の構築が困難になる可能性があることを示した。

第3章では、友人関係に関連する諸理論と研究動向について概説した。まず、異文化適応に関する諸理論について概観し、友人関係の構築が異文化適応を促進することを示した。また、友人関係に関連する要因として、言語・コミュニケーション、文化、環境の3点について概説した。さらに、留学生の友人関係期待について、領域・属性・異文化間の差異・実際の体験とのずれに着目し概説した。加えて、友人形成促進のためのコミュニティ援助に関する諸理論として、コミュニティ・アプローチによる留学生支援、教育的介入、ソーシャルサポート介入の3点を述べた。

これらを踏まえ、第4章では、中国人留学生の友人形成及び友人不形成過程について質的に検討し、友人形成への関心、友人関係期待、友人関係に関する否定的体験、否定的体験に対する行動、友人関係に関する肯定的体験のカテゴリーを見出した。また、対象者を「積極的関心積極的行動型」「積極的関心消極的行動型」「消極的関心積極的行動型」「消極的関心消極的行動型」の4型に分類し、友人形成に至る促進要因として制度的支援と留学生の積極性が関連していることを示した。

第5章では、中国人留学生の友人関係に関する期待と体験の否定的認識及び友人関係への不満の関連について検討した。その結果、「友人関係期待」として対等な協働関係、信頼的援助、共行動、個人への共感と関心、出身地域への関心の因子が抽出され、「友人関係に関する体験の否定的認識」として被差別感、対等な協働関係の不成立、関係形成の障害、交流不全、交流スタイルの相違による障害の因子

が抽出された。留学生の友人関係への期待が実現せず、否定的な認識へとつながっていること、相手に対して一方的な期待を持っていたり日本人学生との間に年齢差があったりする場合に、そのことが交流の障害となることが示された。また、被差別感と交流不全感が強いほど友人関係への不満があることが示された。

第6章では、中国人留学生の友人関係に関する体験の否定的認識と友人関係不満の原因帰属の関連について検討した。友人関係不満の原因帰属として、人的内的要因、人的外的要因、社会的外的要因の因子が抽出された。交流不全感を感じる留学生は友人関係に対する不満の原因を大学の環境などの社会的外的要因に、被差別感が少なく学年の低い留学生は留学生自身の努力不足など人的内的要因に、被差別感が強い留学生は日本人学生の交流への消極性などの人的外的要因に原因を帰属させる傾向が示された。

以上より第4章から第6章において留学生と日本人学生の友人形成が生じにくいことが問題として示されたが、問題の改善策を探るために、第7章では、多文化交流合宿に参加した留学生と日本人学生を対象に教育的介入による学びについて検討した。その結果、合宿に参加した中国人留学生・日本人学生の交流体験について、参加者全体との交流、討論グループ内の交流、討論グループを超えた親密化、個人間の交流の 카테고리を見出した。また、全体から個別の交流に至る過程において両者が自発的コミュニティに参加する段階があり、この段階を経ることで関係が深まることを示した。さらに、教育的介入によって、留学生は相互理解、日本人学生は異文化間交流の楽しさと学びを得ていたことが示された。

第8章では、第7章と同様に合宿に参加した中国人留学生と日本人学生を対象に合宿後の交流の継続とその関連要因について質的に検討し、合宿後の交流継続、合宿後の交流不全、合宿以前からの交流の 카테고리を見出し、参加者間の交流が継続している傾向を示した。さらに、リピーターの日本人学生が交流を促進する仲介役となっていることが示された。以上の研究を踏まえ、第9章では友人形成を阻害する要因と友人形成を促進する要因、留学生の友人形成に関する制度的支援として大学に求められる支援に焦点を当て、総合的な考察を行った。